



コロナ禍のさなかで

筑波大学医学医療系

解剖学・神経科学

武井陽介

一昨年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行は世界を覆い、いまなお私たちの生活に大きな影響を与え、先の見通せない状況が続いています。

筑波大学医学群も例外ではなく、昨年度の新学期から学生は自宅待機となり、オンラインの遠隔講義を視聴するという状態を余儀なくされました。その後、大学構内立ち入りが許可され、関係者の努力により対面授業が再開されました。現在、医学群の講義の多くは講義室での対面講義とオンライン受講を選ぶことができるようになり、以

前より学習しやすくなったという学生の声も出ています。

講義はオンラインを併用することで解決できますが、解剖学の実習はそうはいきません。医学を学ぶ者は入門の時期に解剖学を学び人間の身体の隅々まで理解し記憶しなければなりません。同時に、ご遺体に対する畏敬の念を持って解剖学実習を行い、将来医療に携わるための『プロフェッショナルとしての死生観』をかたちづくるのです。こうした『学び』はオンラインではどうも達成することができません。どうしても本物の人体で実習を行わなければならぬのです。他大学では解剖学実習の中止あるいは内容を大幅に減らす措置をとったところもありましたが、筑波大学では上記の理由からコロナ禍下にあっても感染防御対策を施しながら

発行 筑波大学白菊会  
茨城県つくば市  
天王台 1-1-1  
解剖献体事務室  
電話 029 (853) 3230  
印刷 前田印刷株式会社  
電話 029 (875) 6696



令和元年度慰霊式 (祭壇)

字歴  
題略  
紙者  
表筆

今井 凌雪(いまいりょうせつ)  
潤一 大正十一年十二月十九日生  
立命館大学卒  
前筑波大学教授(芸術専門学群)  
日展評議員・日本書芸院常務理事・  
雪心会主宰  
朝日書道千人展メンバー・日展文部大臣賞・  
朝日書道賞、芸術院奨励賞受賞